

北見地区消防組合

平成 30 年救急統計



目 次

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）	・・・ P1～2
2、地区別救急隊出動件数	・・・ P3～4
3、救急搬送の状況（活動時間の推移）	・・・ P4
4、傷病者年齢区分別搬送人員状況	・・・ P5～6
5、傷病程度別搬送人員状況	・・・ P7
6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況	・・・ P8
7、急病に係る疾病分類項目別重症割合	・・・ P8
8、医療機関別搬送人員の状況及び管外搬送状況	・・・ P9
9、病院問合せ回数	・・・ P10
10、心肺停止傷病者搬送人員、社会復帰状況	・・・ P11
11、救命救急センター（北見赤十字病院）搬送状況	・・・ P12
12、特定行為等の実施状況	・・・ P13
13、救命講習実施状況	・・・ P14
14、市民による応急手当実施状況	・・・ P15
15、口頭指導による応急手当実施不可理由	・・・ P16
16、脳疾患患者及び心疾患患者搬送状況	・・・ P17～18
17、周産期救急の出動状況	・・・ P19～20
18、ドクターカー出動状況	・・・ P20

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）

平成 30 年中の救急出動件数は、5,848 件で前年比 3.3% (186 件) 増加し、搬送人員は 5,363 人で前年比 3.5% (182 人) 増加している。

平成 24 年から救急出動件数は、5,000 件を超えており、増加傾向にある。(図 1-1、表 1-1、表 1-2)

図 1-1 救急件数の推移

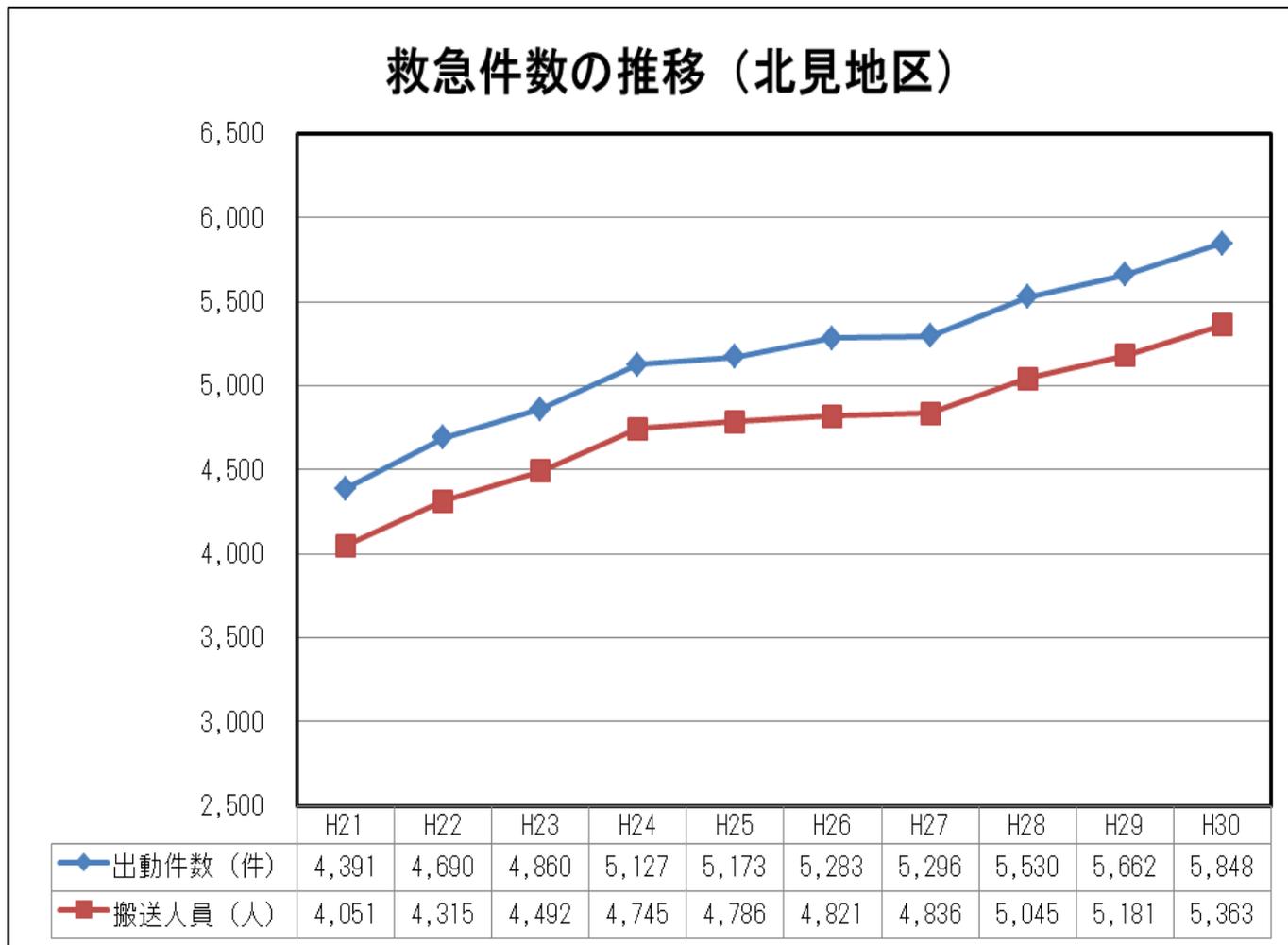


表 1-1 年別出動件数内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	組合合計	前年比
1992 (H4)	1,092	766	15	0					1,873	65	5	111	181	2,054	
1993 (H5)	1,232	691	15	0					1,938	74	0	102	176	2,114	60 2.9%
1994 (H6)	1,285	697	12	0					1,994	89	0	127	216	2,210	96 4.5%
1995 (H7)	1,304	853	20	0					2,177	81	0	135	216	2,393	183 8.3%
1996 (H8)	1,354	881	36	1					2,272	106	126	134	366	2,638	245 10.2%
1997 (H9)	1,438	900	26	3					2,367	88	154	169	411	2,778	140 5.3%
1998 (H10)	1,367	808	19	0					2,194	108	134	167	409	2,603	-175 -6.3%
1999 (H11)	1,466	928	31	0					2,425	101	159	163	423	2,848	245 9.4%
2000 (H12)	1,604	1,032	38	2					2,676	136	161	147	444	3,120	272 9.6%
2001 (H13)	1,564	1,029	34	2					2,629	127	157	190	474	3,103	-17 -0.5%
2002 (H14)	1,613	1,153	36	1					2,803	133	167	180	480	3,283	180 5.8%
2003 (H15)	1,783	1,203	150	0					3,136	156	163	183	502	3,638	355 10.8%
2004 (H16)	1,772	1,280	249	9					3,310	131	192	215	538	3,848	210 5.8%
2005 (H17)	1,643	1,220	310	3					3,176	159	231	209	599	3,775	-73 -1.9%
2006 (H18)	1,711	1,231	279	3	296	220	358		4,098	168		191	359	4,457	682 18.1%
2007 (H19)	1,848	1,202	22	2	470	199	364		4,107	163		214	377	4,484	27 0.6%
2008 (H20)	1,729	1,207	18	0	470	215	350		3,989	145		173	318	4,307	-177 -3.9%
2009 (H21)	1,831	1,243	10	4	438	181	320		4,027	159		205	364	4,391	84 2.0%
2010 (H22)	1,926	1,361	15	4	490	177	353		4,326	168		196	364	4,690	299 6.8%
2011 (H23)	1,919	1,404	16	8	554	185	356		4,442	210		208	418	4,860	170 3.6%
2012 (H24)	2,028	1,548	27	7	607	185	378		4,780	158		189	347	5,127	267 5.5%
2013 (H25)	2,085	1,500	28	8	579	191	419	12	4,822	146		205	351	5,173	46 0.9%
2014 (H26)	2,155	1,562	18	8	596	164	399	13	4,915	152		216	368	5,283	110 2.1%
2015 (H27)	1,818	1,444	654	7	363	197	426	21	4,930	160		206	366	5,296	13 0.2%
2016 (H28)	1,788	1,432	997	9	340	172	379	13	5,130	172		228	400	5,530	234 4.4%
2017 (H29)	1,832	1,567	957	12	337	181	378	18	5,282	182		198	380	5,662	132 2.4%
2018 (H30)	1,919	1,553	1,022	13	343	172	431	18	5,471	160		217	377	5,848	186 3.3%

表 1-2 年別搬送人員内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	合計	前年比
1992 (H4)	1,088	785	16	0					1,889	72	0	119	191	2,080	
1993 (H5)	1,234	716	15	0					1,965	82	0	110	192	2,157	77 3.7%
1994 (H6)	1,256	711	12	0					1,979	101	0	129	230	2,209	52 2.4%
1995 (H7)	1,284	848	23	0					2,155	82	0	147	229	2,384	175 7.9%
1996 (H8)	1,312	902	26	0					2,240	107	124	147	378	2,618	234 9.8%
1997 (H9)	1,366	904	19	0					2,289	81	159	173	413	2,702	84 3.2%
1998 (H10)	1,335	812	17	0					2,164	101	135	174	410	2,574	-128 -4.7%
1999 (H11)	1,427	926	30	0					2,383	107	165	160	432	2,815	241 9.4%
2000 (H12)	1,581	1,009	34	1					2,625	134	161	154	449	3,074	259 9.2%
2001 (H13)	1,559	1,037	38	0					2,634	135	160	188	483	3,117	43 1.4%
2002 (H14)	1,565	1,104	34	0					2,703	127	174	177	478	3,181	64 2.1%
2003 (H15)	1,657	1,166	145	0					2,968	143	157	174	474	3,442	261 8.2%
2004 (H16)	1,689	1,227	251	11					3,178	127	181	219	527	3,705	263 7.6%
2005 (H17)	1,530	1,149	311	3					2,993	146	204	196	546	3,539	-166 -4.5%
2006 (H18)	1,567	1,155	259	2	277	209	333		3,802	157		183	340	4,142	603 17.0%
2007 (H19)	1,692	1,155	9	2	454	201	335		3,848	159		211	370	4,218	76 1.8%
2008 (H20)	1,573	1,155	11	0	435	215	334		3,723	139		166	305	4,028	-190 -4.5%
2009 (H21)	1,666	1,153	3	3	411	168	296		3,700	150		201	351	4,051	23 0.6%
2010 (H22)	1,706	1,281	6	4	467	166	339		3,969	167		179	346	4,315	264 6.5%
2011 (H23)	1,750	1,304	7	8	510	180	332		4,091	202		199	401	4,492	177 4.1%
2012 (H24)	1,861	1,435	18	7	554	178	359		4,412	154		179	333	4,745	253 5.6%
2013 (H25)	1,884	1,438	16	7	530	187	393	7	4,462	140		184	324	4,786	41 0.9%
2014 (H26)	1,921	1,451	7	5	551	156	367	13	4,471	149		201	350	4,821	35 0.7%
2015 (H27)	1,633	1,324	595	6	335	179	406	15	4,493	154		189	343	4,836	15 0.3%
2016 (H28)	1,618	1,335	884	7	313	156	349	10	4,672	161		212	373	5,045	209 4.3%
2017 (H29)	1,645	1,479	856	8	314	163	344	11	4,820	175		186	361	5,181	136 2.7%
2018 (H30)	1,746	1,454	921	9	312	162	400	16	5,020	149		194	343	5,363	182 3.5%

2、地区別救急隊出動件数

平成30年中の地区別救急隊出動件数をみると、北見は前年比3.6%増の5,471件、置戸は前年比12.1%減の160件、訓子府は前年比9.6%増の217件となっている。(表2-1)

自治区別救急隊出動件数では、北見が前年比3.2%増の4,525件、端野が前年比1.8%増の343件、常呂は前年比5.0%減の172件、留辺蘂は前年比14.0%増の431件となっている。(表2-2)

事故種別割合は、急病(64.0%)による救急出動が大半を占め、一般負傷(13.4%)、転院搬送(9.9%)、交通(5.4%)となっている。(図2-1)

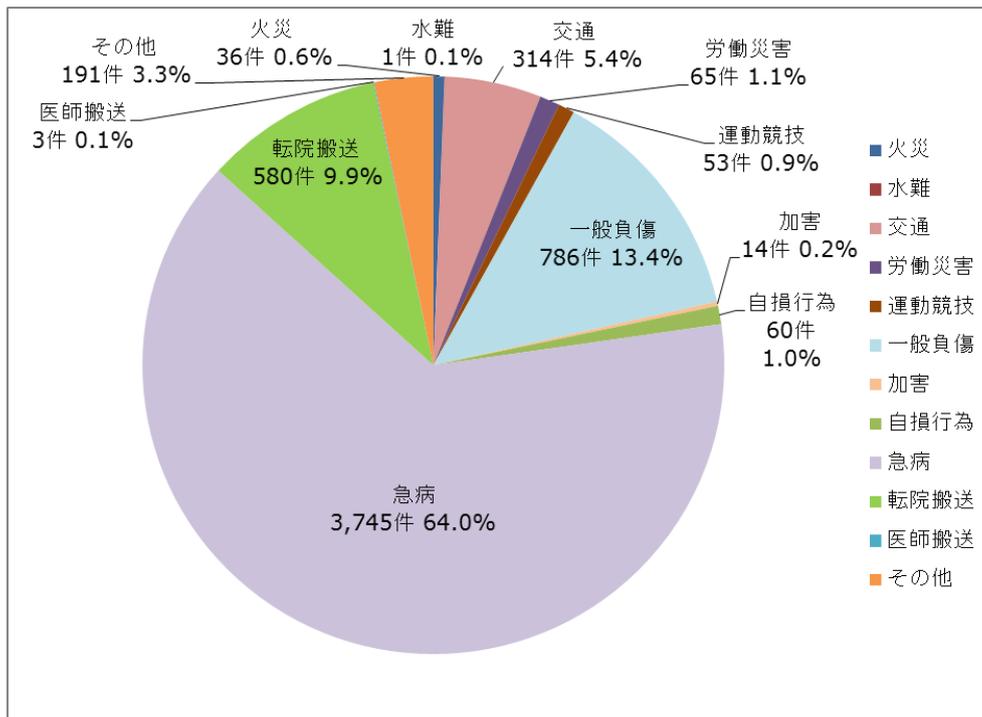
表2-1 地区別救急隊出動件数

地区別	事故種別	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
		災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
		害	災	難	通	害	技	負	害	行		搬	搬	材	他	
合	出動件数	36	0	1	314	65	53	786	14	60	3,745	580	3	0	191	5,848
	増減数	△1	0	△1	△48	△9	△7	44	0	△2	139	62	3	0	6	186
	搬送人員	1	0	1	294	64	53	741	12	45	3,571	580	0	0	1	5,363
	増減数	△11	0	△1	△41	△3	△5	48	2	2	125	65	0	0	1	182
計北	出動件数	27	0	1	296	56	47	740	14	58	3,538	513	3	0	178	5,471
	増減数	△8	0	△1	△47	△13	△12	59	2	1	155	51	3	0	△1	189
	搬送人員	1	0	1	278	55	47	698	12	45	3,369	513	0	0	1	5,020
	増減数	△10	0	△1	△39	△7	△10	64	4	5	139	54	0	0	1	200
置戸	出動件数	2	0	0	8	0	1	15	0	0	63	64	0	0	7	160
	増減数	0	0	0	2	△3	1	△14	△1	△1	△25	12	0	0	5	△24
	搬送人員	0	0	0	7	0	1	16	0	0	61	64	0	0	0	149
	増減数	0	0	0	0	△3	1	△12	△1	0	△23	12	0	0	0	△26
訓子府	出動件数	7	0	0	10	9	5	31	0	2	144	3	0	0	6	217
	増減数	5	0	0	△3	7	4	△1	△1	△2	9	△1	0	0	2	19
	搬送人員	0	0	0	9	9	5	27	0	0	141	3	0	0	0	194
	増減数	△1	0	0	△2	7	4	△4	△1	△3	9	△1	0	0	0	8

表2-2 自治区別救急隊出動件数

北	出動件数	21	0	0	223	36	32	613	12	54	3,004	380	3	0	147	4,525
	増減数	△4	0	△2	△53	△13	△9	37	2	4	163	25	3	0	△14	139
	搬送人員	1	0	0	209	35	32	577	11	42	2,858	380	0	0	1	4,146
	増減数	△10	0	△2	△48	△9	△8	38	3	5	149	28	0	0	1	147
見端	出動件数	2	0	0	37	8	4	44	1	1	164	73	0	0	9	343
	増減数	△2	0	0	△1	△1	△4	3	1	1	△7	12	0	0	4	6
	搬送人員	0	0	0	33	8	4	39	1	1	153	73	0	0	0	312
	増減数	0	0	0	2	0	△4	△1	1	1	△13	12	0	0	0	△2
野常	出動件数	2	0	1	10	6	5	17	0	0	102	24	0	0	5	172
	増減数	△1	0	1	0	4	△1	4	△1	△2	△20	9	0	0	△2	△9
	搬送人員	0	0	1	10	6	5	17	0	0	99	24	0	0	0	162
	増減数	0	0	1	△2	4	0	8	0	0	△21	9	0	0	0	△1
呂留	出動件数	2	0	0	26	6	6	66	1	3	268	36	0	0	17	431
	増減数	△1	0	0	7	△3	2	15	0	△2	19	5	0	0	11	53
	搬送人員	0	0	0	26	6	6	65	0	2	259	36	0	0	0	400
	増減数	0	0	0	9	△2	2	19	0	△1	24	5	0	0	0	56

図 2-1 事故種別出動割合



3、救急搬送の状況（活動時間の推移）

平成 30 年中の現場到着までの平均時間は 7.0 分、病院収容までの平均時間は 32.0 分であり、活動時間が短縮となっている。（図 3-1、表 3-1）

図 3-1 活動時間の推移

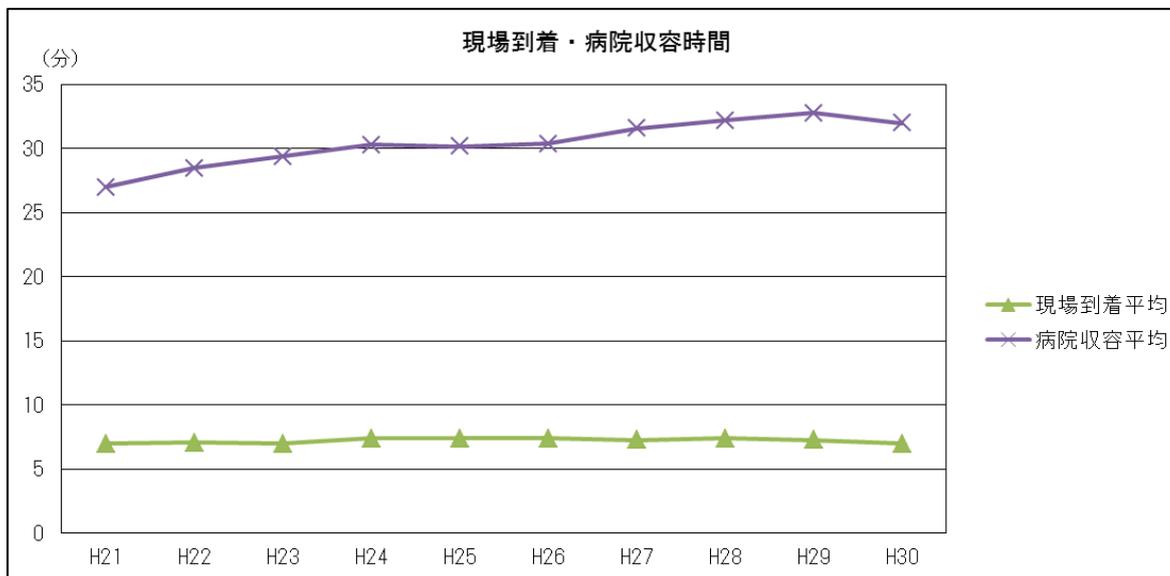


表 3-1 過去 5 年間の活動時間の推移(分)

項目 \ 年	H26	H27	H28	H29	H30
現場到着平均時間 (分)	7.4分	7.3分	7.4分	7.3分	7.0分
病院収容平均時間 (分)	30.4分	31.6分	32.2分	32.8分	32.0分

4、傷病者年齢区分別搬送人員状況

平成30年中の搬送人員5,363人に対し年齢区分における高齢者(65歳以上)の搬送人員は3,384人となり、全体の63.1%を占めている。(表4-1、図4-1)

高齢化率上昇に伴い、高齢者の搬送人員は年々増加傾向にあり、2回以上搬送されている高齢者の数は459人で延べ出動件数は1,051件となっている。(表4-2、図4-2、図4-3)

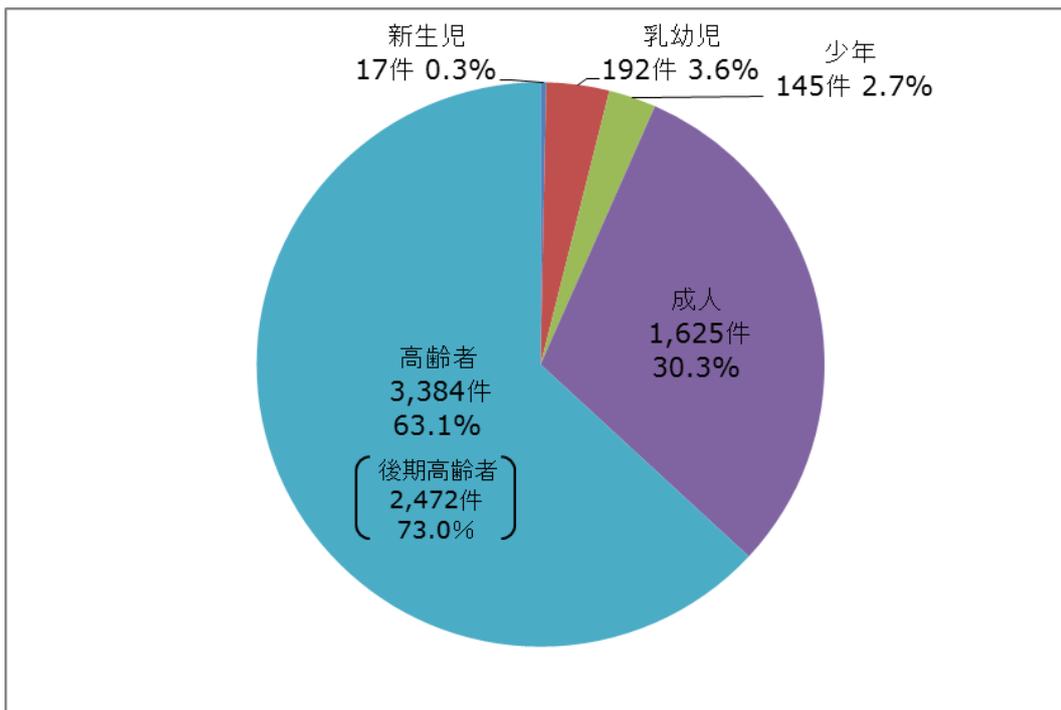
表4-1 年齢区分別搬送種別状況

事故種別 年齢区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資機材等輸送	その他	計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	17
乳幼児	0	0	1	14	0	0	44	2	0	125	6	0	0	0	192
少年	0	0	0	24	1	28	14	0	3	72	3	0	0	0	145
成人	0	0	0	167	51	21	142	6	32	1,062	144	0	0	0	1,625
高齢者 (後期高齢者)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	89 (45)	12 (1)	4 (2)	541 (416)	4 (3)	10 (4)	2,312 (1,690)	410 (311)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3,384 (2,472)
計	1	0	1	294	64	53	741	12	45	3,571	580	0	0	1	5,363

【年齢分類】

- 新生児＝生後28日未満
- 乳幼児＝28日以上7歳未満
- 少年＝7歳以上18歳未満
- 成人＝18歳以上65歳未満
- 高齢者＝65歳以上
- 後期高齢者＝高齢者のうち75歳以上

図4-1 傷病者年齢区分別搬送人員状況

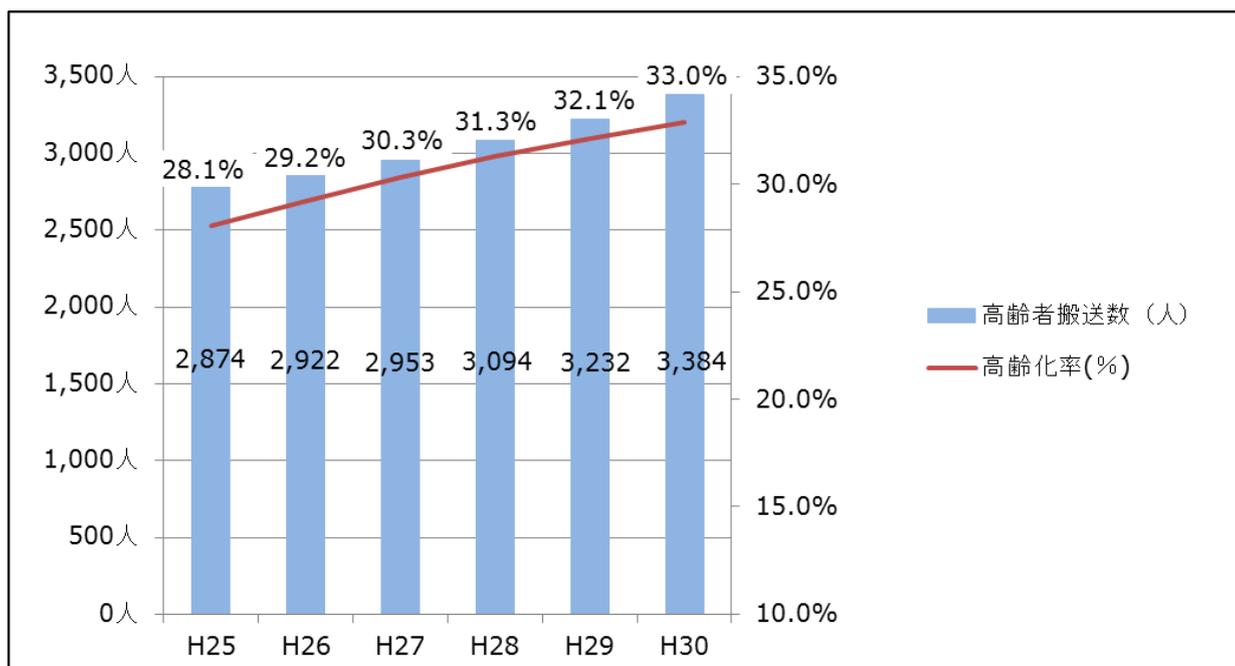


※（ ）内は、高齢者のうち、後期高齢者の件数及び割合を示す。

表 4-2 高齢者搬送人員状況

項目	年	H25		H26		H27		H28		H29		H30	
		搬送人員	増減数	搬送人員	増減数								
急病		1,971	43	2,032	61	2,007	△ 25	2,147	140	2,259	112	2,312	53
一般		386	△ 23	427	41	460	33	463	3	503	40	541	38
交通		103	13	79	△ 24	84	5	95	11	83	△ 12	89	6
その他		414	79	384	△ 30	402	18	389	△ 13	387	△ 2	442	55
計		2,874	112	2,922	48	2,953	31	3,094	141	3,232	138	3,384	138
うち老健施設から		352		413	61	400	△ 13	421	21	425	4	465	40

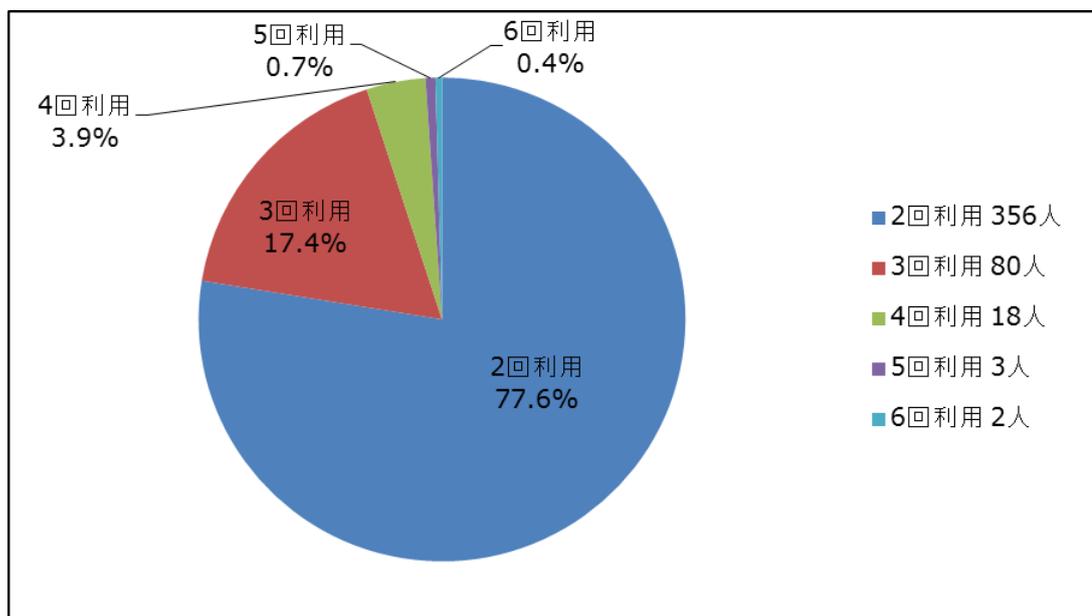
図 4-2 高齢者救急搬送の推移



※高齢者搬送者数は延べ人数

※高齢化率は各年 9 月末の統計（北見市、置戸町、訓子府町から抜粋）

図 4-3 高齢者の複数回利用数



5、傷病程度別搬送人員状況

平成30年中の搬送人員5,363人のうち、死亡、重症、中等症の傷病者の割合は54.0%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は46.1%となっている。（図5-1、表5-1）

図5-1 傷病程度別内訳

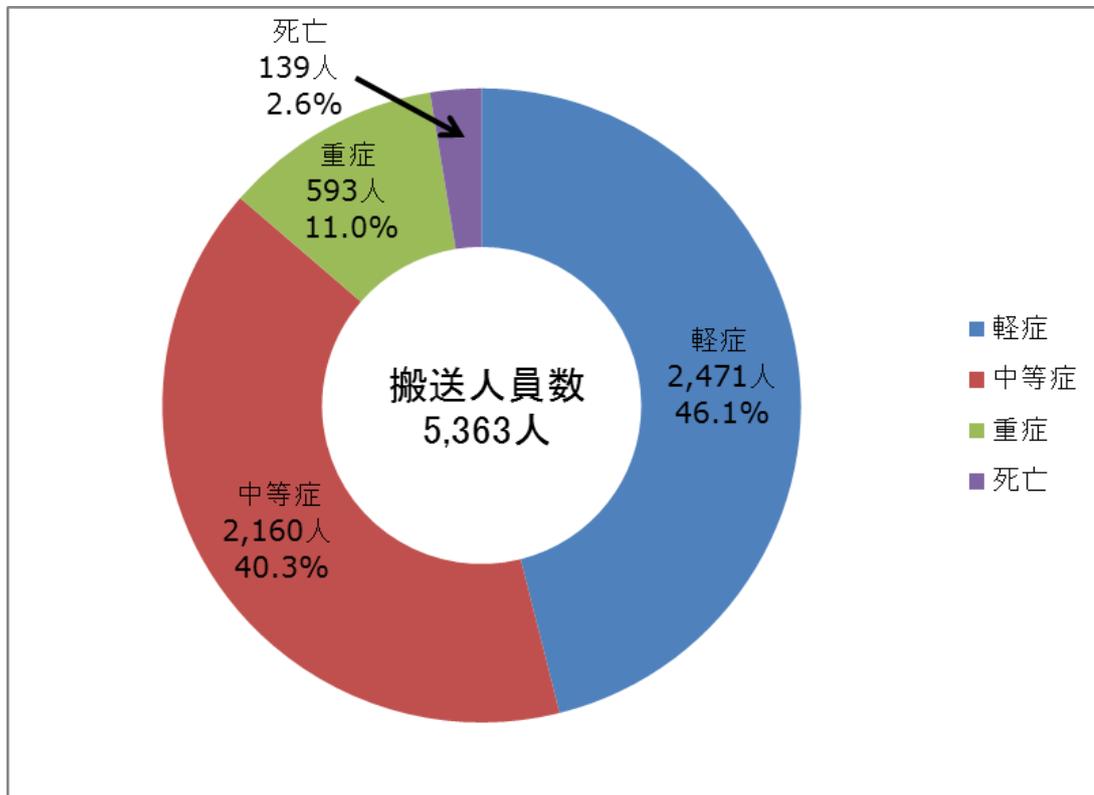


表5-1 傷病程度分類

傷病程度分類

程度	事故種別																計	割合
	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資器材輸送	その他				
死亡	0	0	0	2	0	0	5	0	5	125	2	0	0	0	0	139	2.6%	
重症	0	0	0	11	7	1	47	1	3	391	132	0	0	0	0	593	11.0%	
中等症	1	0	0	84	27	13	328	0	19	1,334	353	0	0	1	2,160	40.3%		
軽症	0	0	1	197	30	39	361	11	18	1,721	93	0	0	0	2,471	46.1%		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
計	1	0	1	294	64	53	741	12	45	3,571	580	0	0	1	5,363	100.0%		

※死亡とは、初診時において死亡が確認されたもの

※重症とは、傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの

※中等症とは、傷病程度が重症又は軽症以外のもの

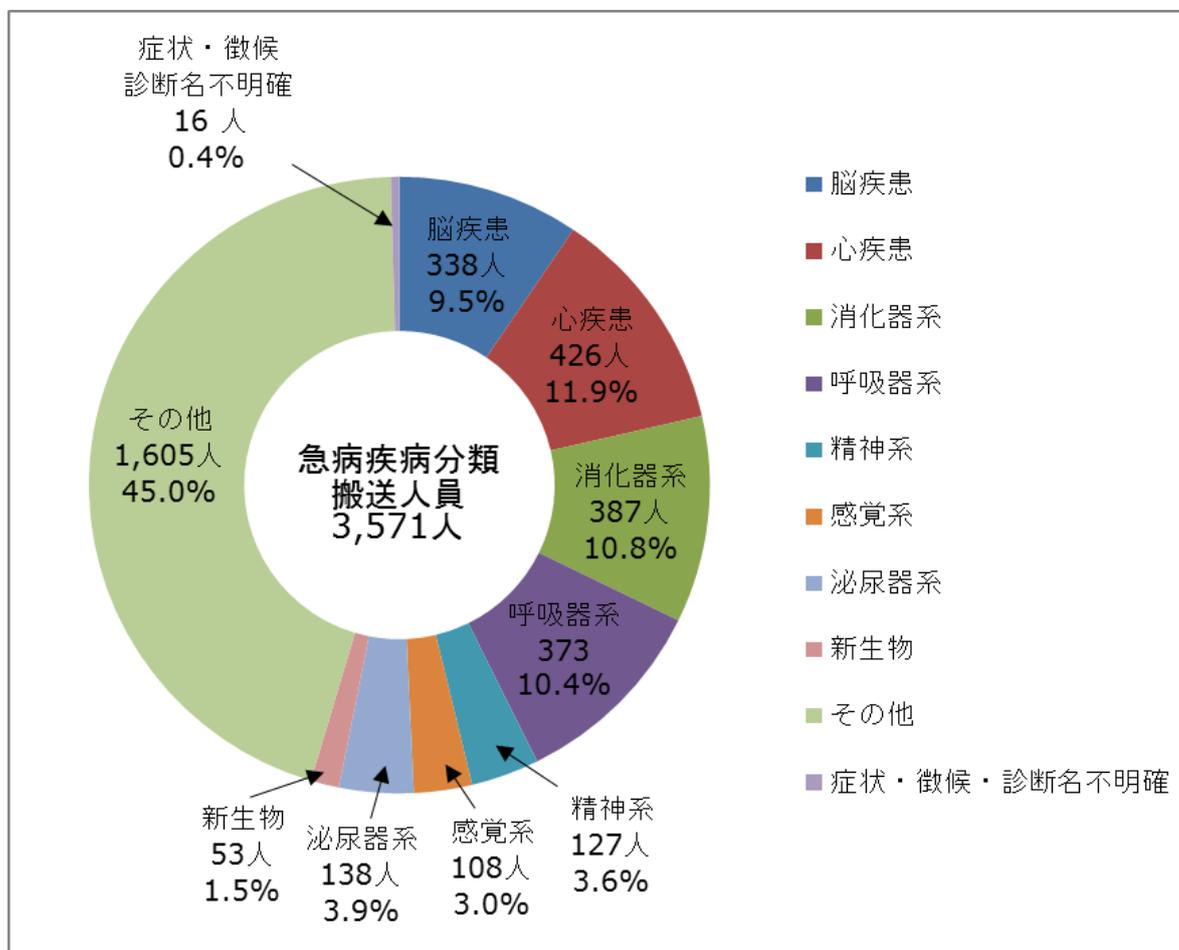
※軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないもの

※その他とは、医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、並びにその他の場所に搬送したものの

6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況

平成30年中の急病の搬送人員内訳を世界保健機構（WHO）の国際疾病分類の項目別で見ると、脳疾患338人（9.5%）、心疾患426人（11.9%）、消化器系387人（10.8%）、呼吸器系373人（10.4%）となっている。（図6-1）

図6-1 急病患者疾病内訳



7、急病に係る疾病分類項目別重症割合

平成30年中の急病の疾病分類項目別に重症以上の割合をみると、脳疾患（46.7%）、新生物（41.5%）、心疾患（25.4%）の順となっている。（表7-1）

表7-1 疾病分類項目別重症割合

種別	脳疾患	心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状・徴候 診断名 不明確	計
搬送人員	338	426	387	373	127	108	138	53	1,605	16	3,571
重症以上	158	108	55	74	7	5	5	22	80	2	516
割合	46.8%	25.3%	14.2%	19.8%	5.5%	4.6%	3.6%	41.5%	5.0%	12.5%	14.4%

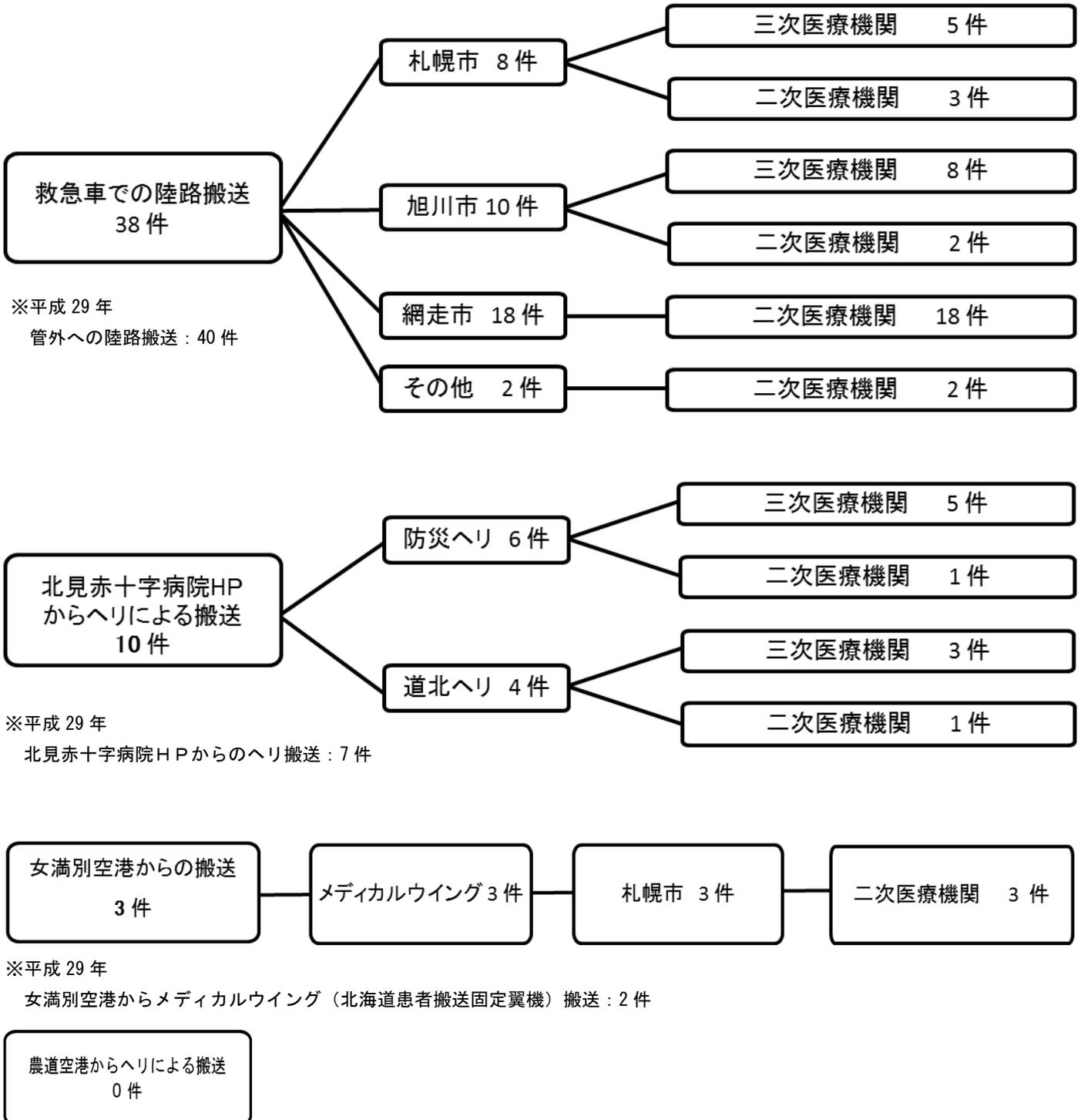
8、医療機関別搬送人員の状況及び管外搬送状況

救急車による管外搬送は、前年より2件減少している。

地域別では、札幌市への搬送が6件増加、旭川市への搬送が6件増加、網走市への搬送が5件減少している。

ヘリコプター等による航空機搬送はなく（前年0件）、北見赤十字病院HPからの搬送は、前年より3件増加している。（図8-1）

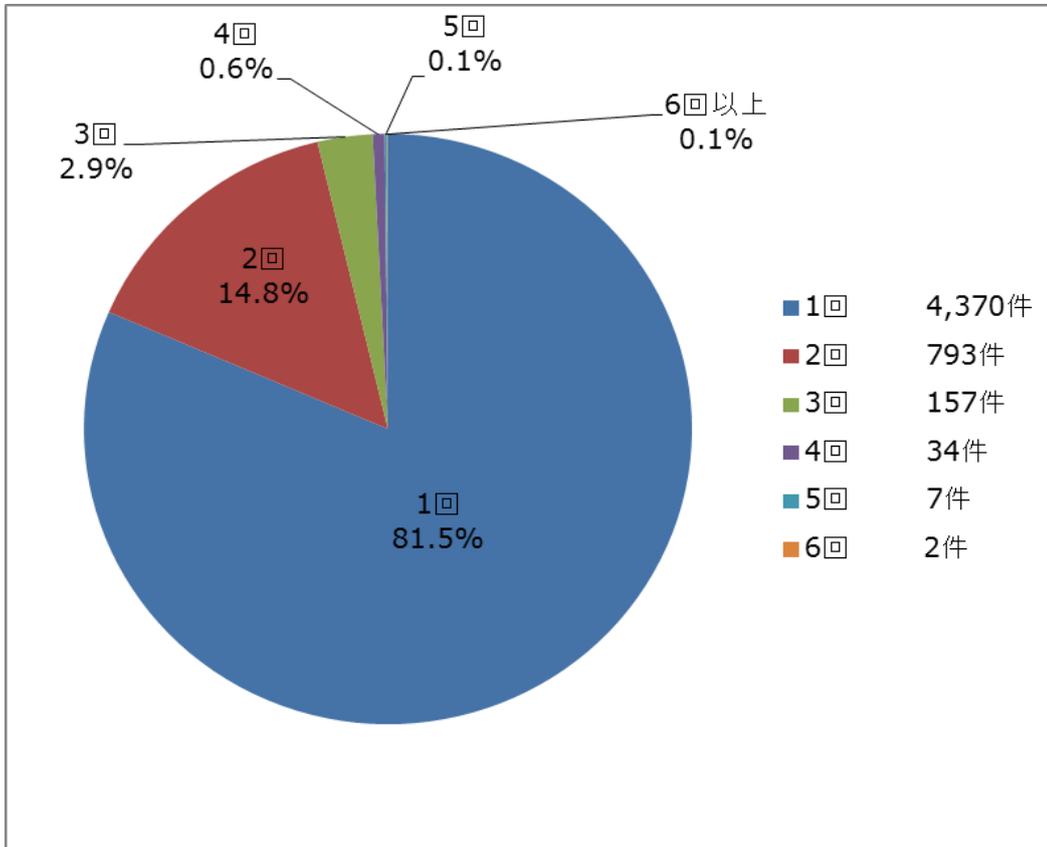
図8-1 管外搬送状況内訳



9、病院問合せ回数

平成 30 年中における病院問合せ回数で、1 回で決定したものは 4,370 件 (81.5%)、2 回以上 (最多 6 回) で決定したものを合わせると、993 件 (18.5%) となっている。(図 9-1)

図 9-1 病院問合せ回数



10、心肺停止傷病者搬送人員、社会復帰状況

平成 30 年中の心肺停止傷病者搬送数は 157 人と前年より 3 人増加した。(図 10-1)
社会復帰者数は 10 人であった。(表 10-1)

図 10-1

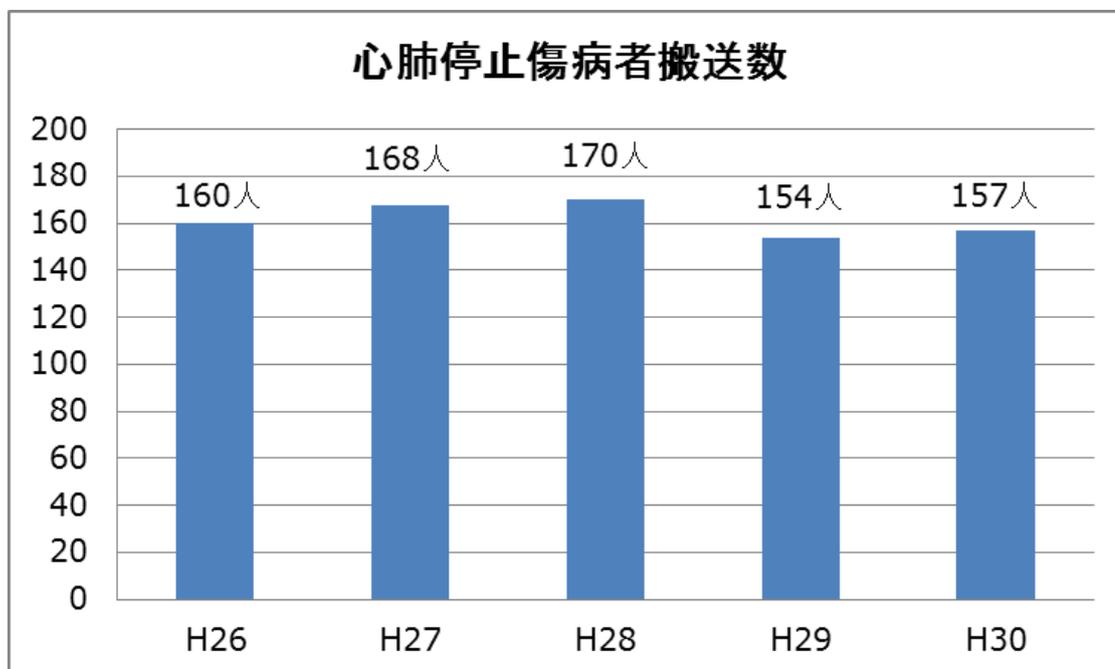


表 10-1

心肺停止傷病者社会復帰率（過去5年間）

項目 \ 年	H26	H27	H28	H29	H30
心肺停止傷病者搬送数	160	168	170	154	157
社会復帰者数	5	11	5	2	10
社会復帰率	3.1%	6.5%	2.9%	1.3%	6.4%

※社会復帰者とは、脳機能カテゴリー（CPC）2 以下かつ全身機能カテゴリー（OPC）2 以下のもの

11、救命救急センター（北見赤十字病院）搬送状況

平成 30 年中の救命救急センターへの搬送人員は前年と比べ 216 人増加している。

CPA（心肺停止患者）の搬送は 157 人中 128 人、81.5%が救命救急センターへ搬送されている。

（表 11-1）

表 11-1

救命救急センター（北見赤十字病院）搬送人員

項目		事故種別									計
		急病	一般	交通	労災	自損	加害	運動	転院	その他 (火災等)	
北見地区	搬送人員	3,571	741	294	64	45	12	53	580	3	5,363
	CPA搬送人員	136	10	3	0	6	0	0	2	0	157
救命救急センター (北見赤十字病院)	搬送人員	1,846	378	125	44	38	7	24	464	2	2,928
	搬送割合	51.7%	51.0%	42.5%	68.8%	84.4%	58.3%	45.3%	80.0%	66.7%	54.6%
	CPA搬送人員	109	8	3	0	6	0	0	2	0	128

12、特定行為等の実施状況

特定行為等の実施状況では、平成28年から血糖測定実施数が大幅に増加していたが、処置拡大2行為の実施可能な救急救命士の増加により、前年同様の実施となった。

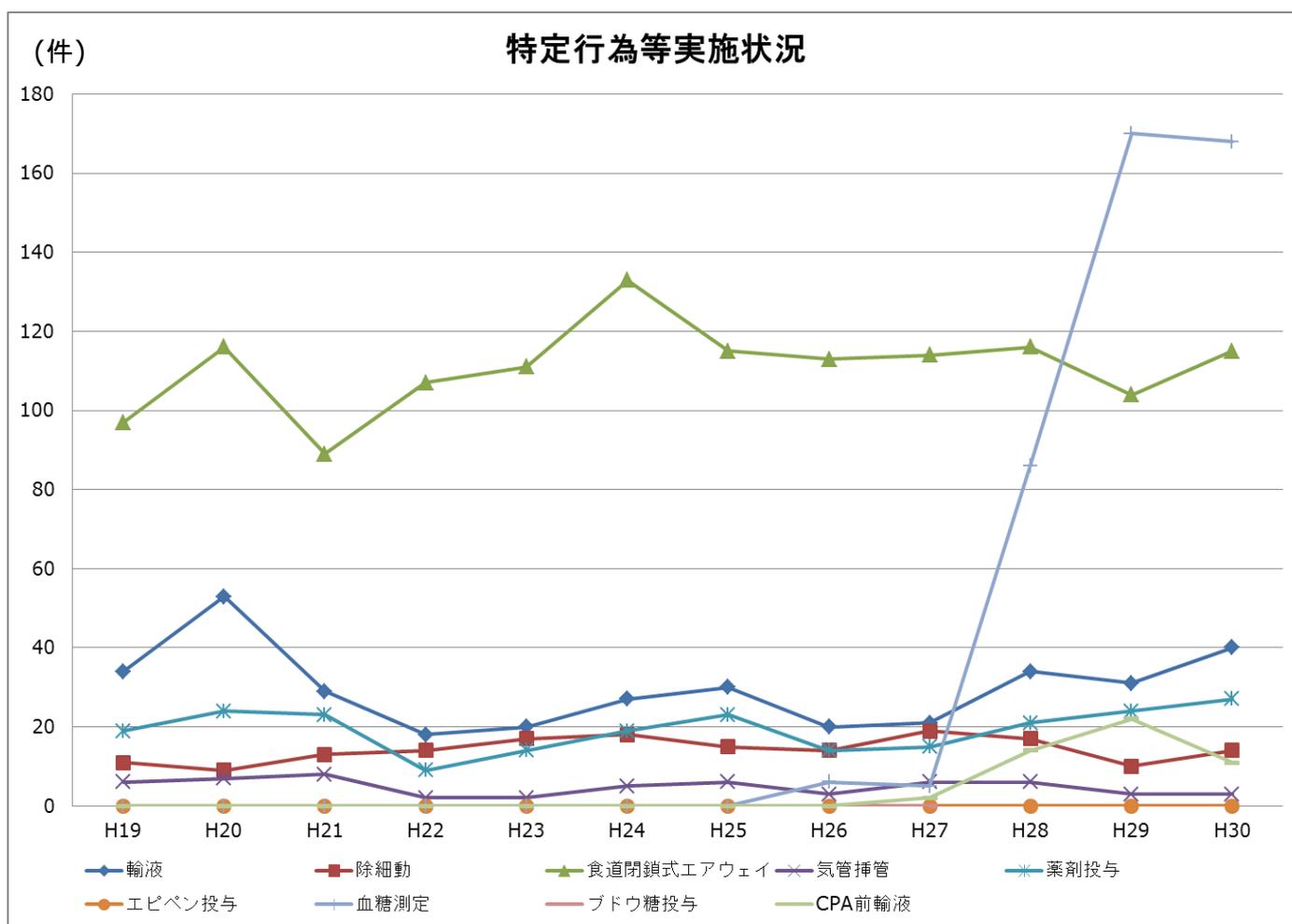
平成30年はブドウ糖投与10件、CPA前輸液11件を実施した。(表12-1、図12-1)

表12-1

特定行為等の実施状況（過去5年間）

年	項目	輸液	除細動	食道閉鎖式エアウェイ	気管挿管	薬剤投与	エピペン投与	血糖測定	ブドウ糖投与	CPA前輸液
H26		20	14	113	3	14	0	6	0	0
H27		21	19	114	6	15	0	5	1	2
H28		34	17	116	6	21	0	86	7	14
H29		31	10	104	3	24	0	170	19	22
H30		40	14	115	3	27	0	168	10	11

図12-1



13、救命講習実施状況

過去3年の救命講習実施状況は、普通救命講習及び一般講習等合わせて517回の実施、延べ10,718人の受講となっている。(表13-1)

平成30年は179回の実施、受講者数は3,616人で前年より13人増加した。

また、応急手当普及員が中心となり単独で救命講習も実施されており、救命講習受講者数は増加している。

表13-1

応急手当普及啓発講習会実施状況(過去3年間)

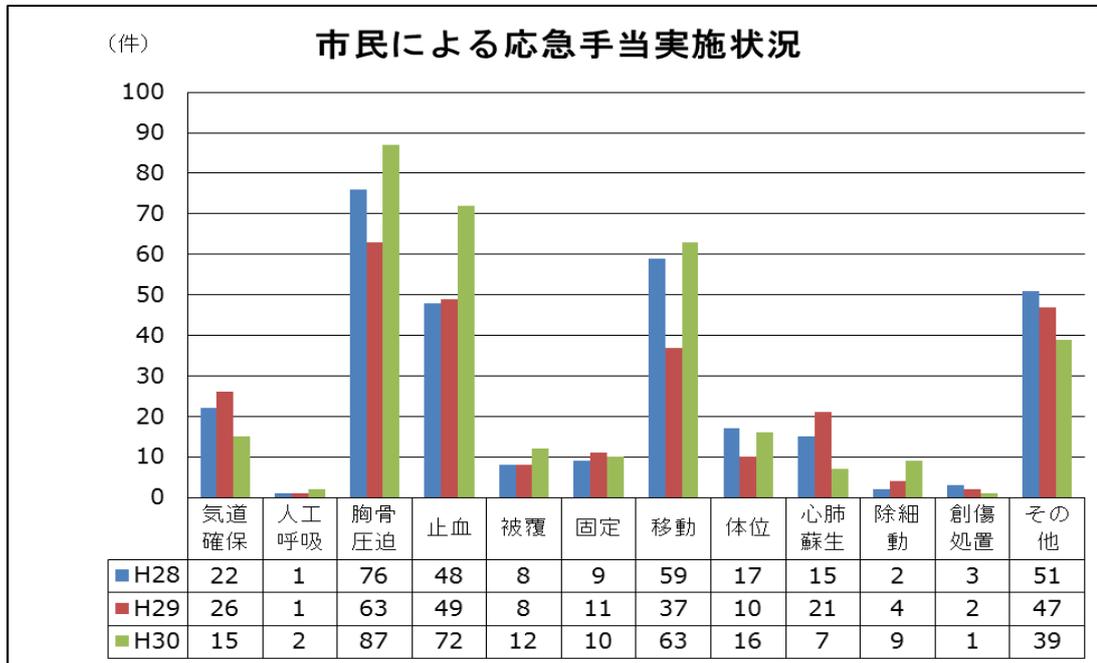
年	講習(種類)		回数(回)	人数(人)	
平成28年	普通救命講習		普通Ⅰ	78	1,514
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門コース	学校関係	2	29
			職域関係	3	45
			一般	2	31
		応急手当講習	学校関係	3	67
			職域関係	13	317
			一般	8	188
		短時間講習	学校関係	17	512
			職域関係	27	630
			一般	7	191
	上級救命講習			1	30
	普及員講習			3	22
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			0	0	
計			164	3,576	
平成29年	普通救命講習		普通Ⅰ	76	1,462
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門コース	学校関係	0	0
			職域関係	0	0
			一般	0	0
		応急手当講習	学校関係	2	390
			職域関係	8	145
			一般	16	231
		短時間講習	学校関係	24	537
			職域関係	29	669
			一般	8	146
	上級救命講習			0	0
	普及員講習			4	23
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			0	0	
計			167	3,603	
平成30年	普通救命講習		普通Ⅰ	89	1,677
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	救命入門コース	学校関係	0	0
			職域関係	0	0
			一般	0	0
		応急手当講習	学校関係	1	50
			職域関係	18	60
			一般	12	359
		短時間講習	学校関係	33	966
			職域関係	18	363
			一般	7	139
	上級救命講習			0	0
	普及員講習			1	2
	指導員講習			0	0
患者等搬送事業者			0	0	
計			179	3,616	
合計			510	10,718	

14、市民による応急手当実施状況

過去3年において実施された応急手当をみると、胸骨圧迫が最も多く実施されている。平成30年は胸骨圧迫、止血、移動の順となっている。(図14-1)

口頭指導と応急手当実施件数には、大きな開きがみられたが、口頭指導実施下における応急手当の実施状況では、胸骨圧迫の実施件数が87件と最も多かった。(図14-2)

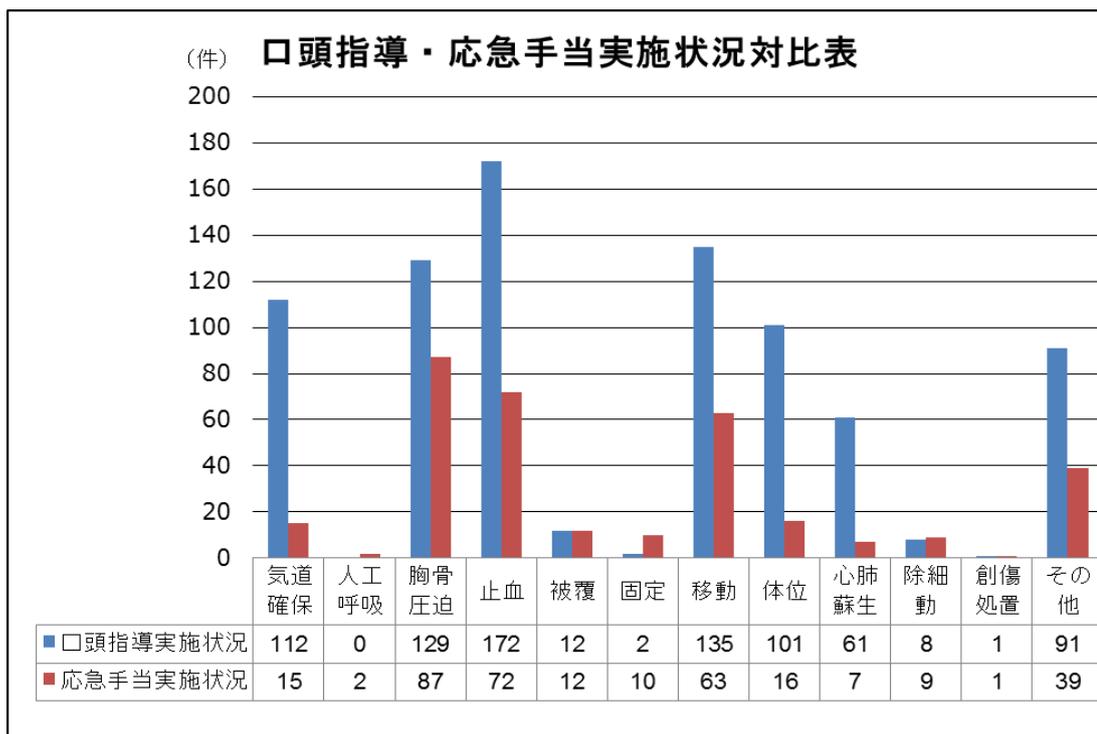
図14-1



※心肺蘇生は、人工呼吸と胸骨圧迫の両方を実施したもの。

※その他は、上記以外の冷却などの処置。

図14-2

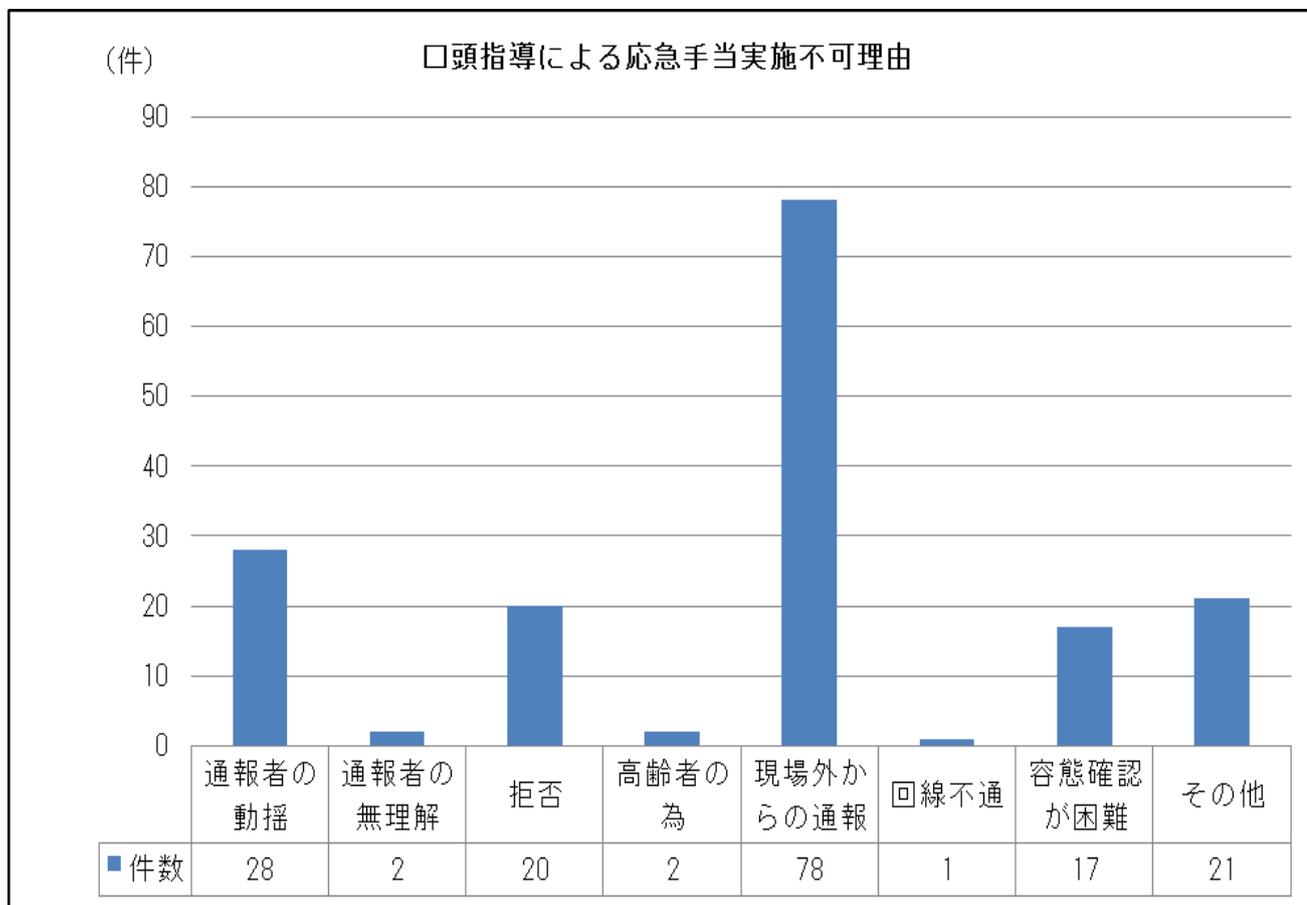


15、口頭指導による応急手当実施不可理由

口頭指導をしたが応急手当を実施できなかった理由として、現場外からの通報の78件が最も多く、通報者の動揺28件、拒否20件と続いている。(図15-1)

その他の内訳としては「症状回復、死亡徴候が見られる、電話を切られた」等がある。

図15-1



※すべての救急事案で聴取することは不可能なため、聴取可能だった事案のみ統計に反映している。

16、脳疾患患者及び心疾患患者搬送状況

平成30年中の急病件数に占める脳疾患の割合は3,571件中338件で9.5%、心疾患の占める割合は426件で11.9%であった。(図16-1)

脳疾患の傷病程度重症以上の患者は338件中158件で46.8%、心疾患の傷病程度重症以上の患者は、426件中108件で25.3%あった。(図16-2)

図16-1

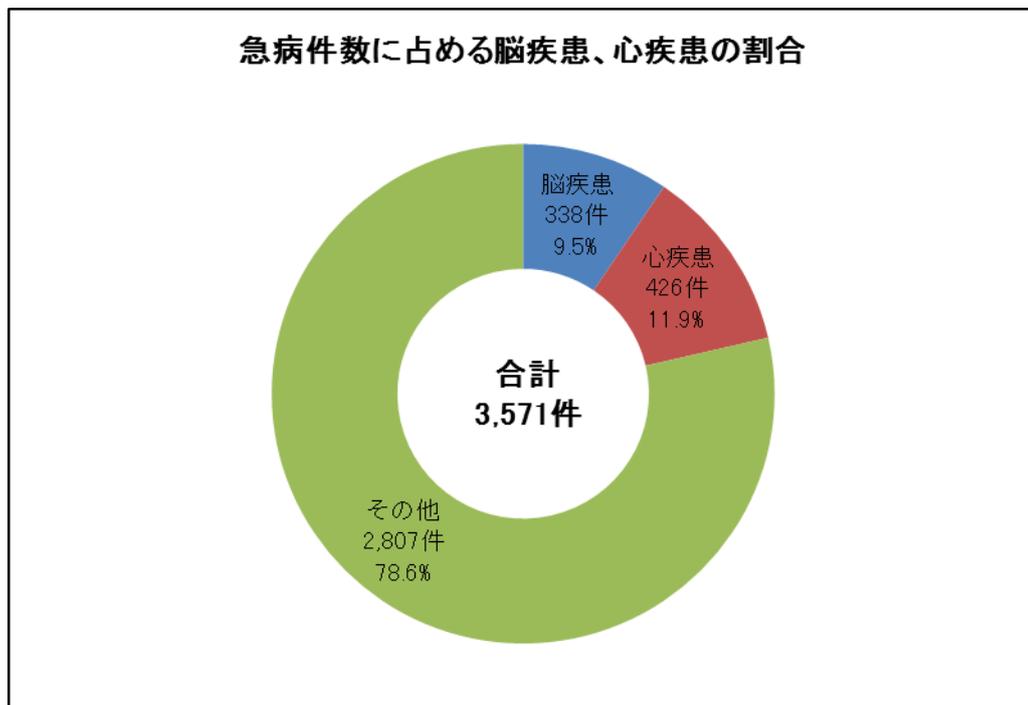
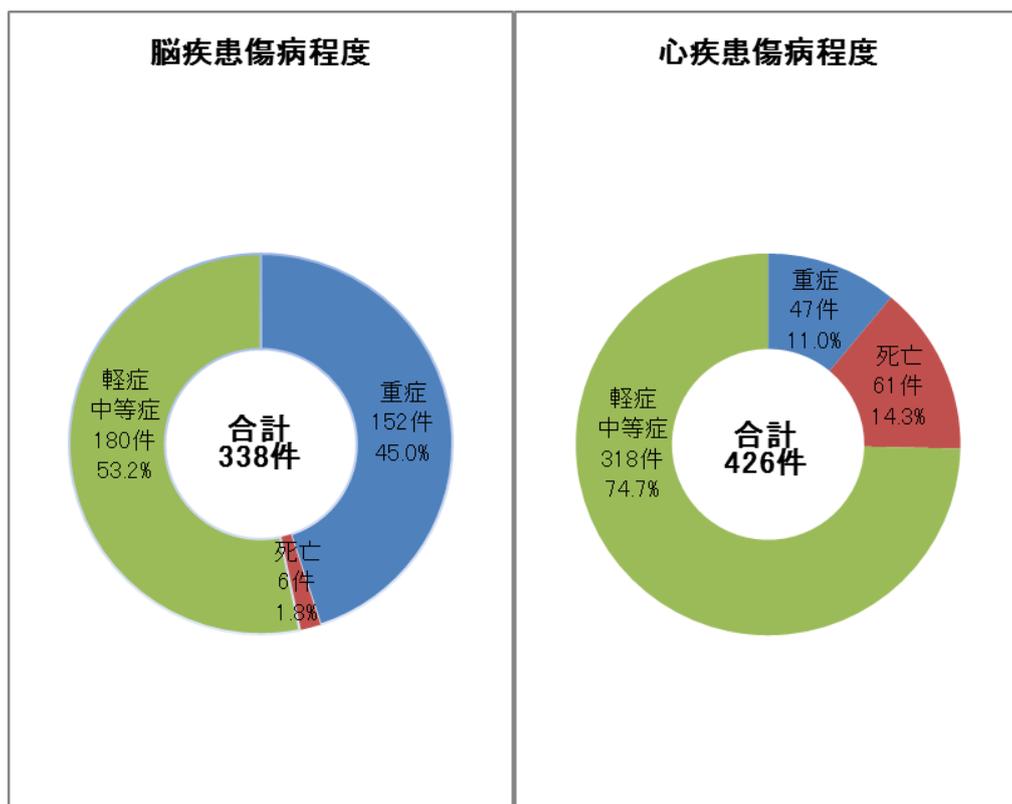
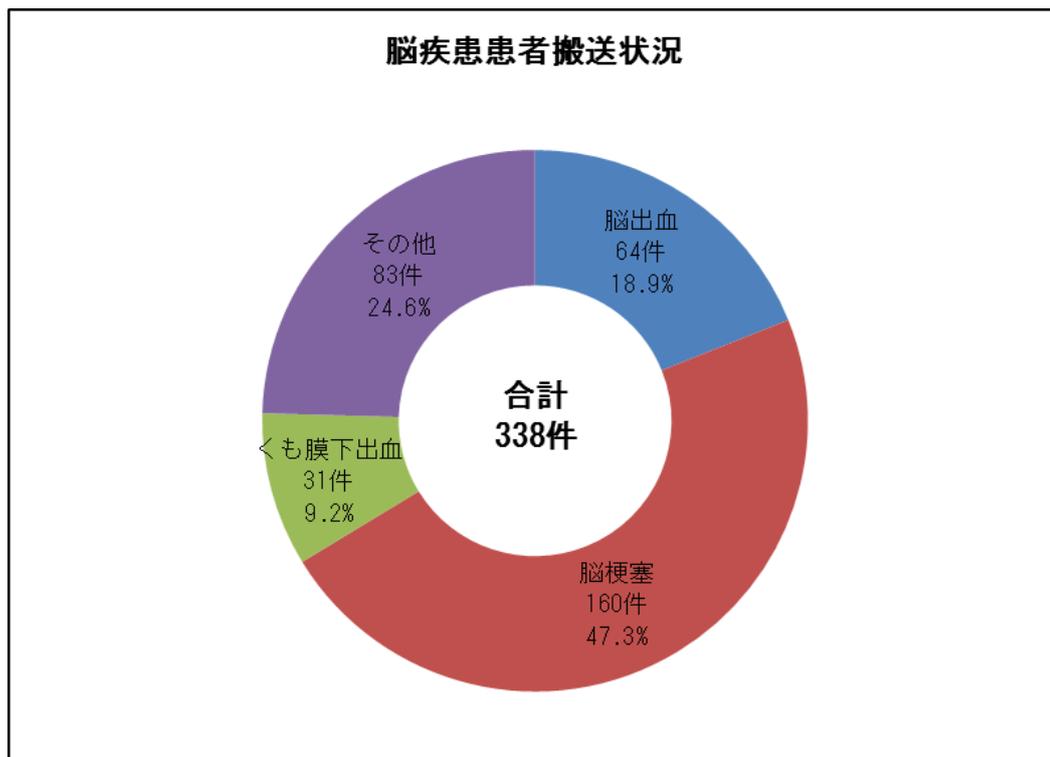


図16-2



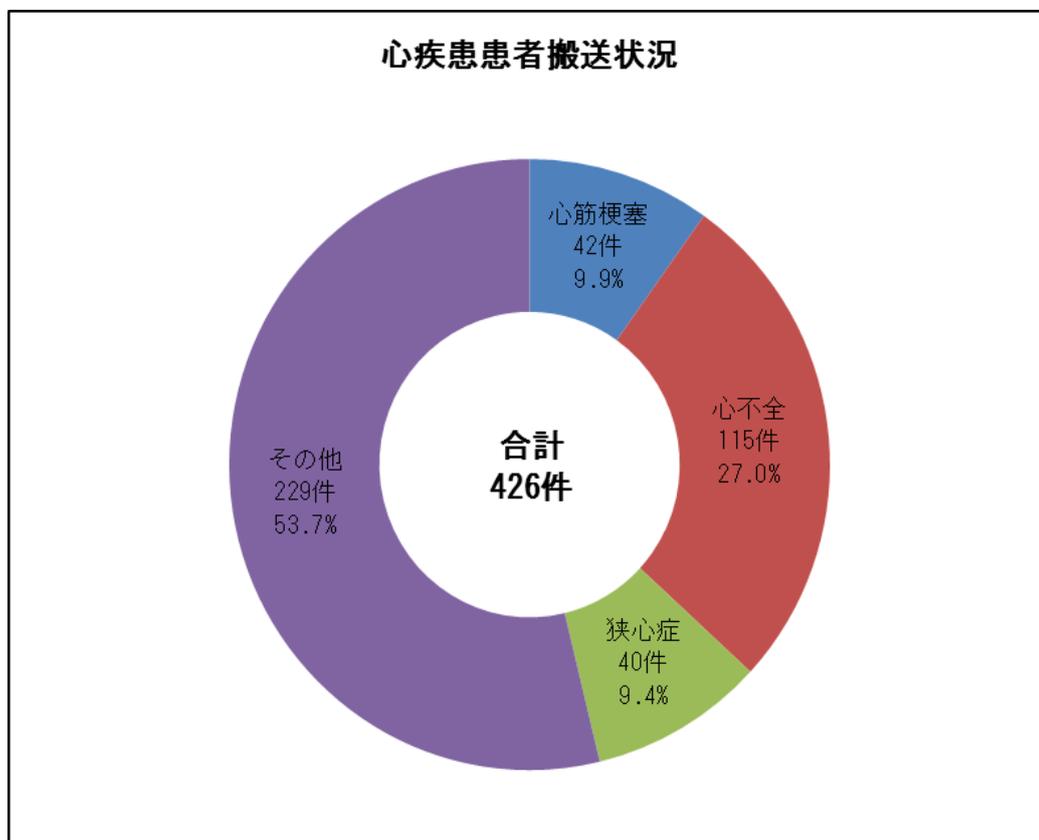
脳疾患患者の搬送状況として 338 件中、脳卒中が 255 件で 75.4%を占める。（図 16-3）

図 16-3



心疾患患者の搬送状況として心不全、心筋梗塞、狭心症の順に多く、46.3%を占める。（図 16-4）

図 16-4



17、周産期救急の出動状況

平成30年の周産期救急は28件（0.4%）で、病院前分娩は0件であった。過去3年の周産期救急における搬送状況は転院搬送が多数を占めており、急病、交通の順となっている。（表17-1、表17-5）

平成20年2月より病院前分娩に対する救急活動を日本赤十字北海道看護大学の指導の下、「安心・安全なお産」の一助となることを目的に研修を行っており、希少事案の迅速な対応として今後も周産期救急ドクターカーを含めた連携強化が必要である。

表17-1 救急出動件数と周産期救急傷病者搬送件数

	救急出動件数	周産期救急傷病者搬送件数	事故種別別出動状況	
			母体	新生児
平成28年	5,530 件	51 件	母体	転院搬送21、急病6、交通3、その他1
			新生児	転院搬送18、急病 2
平成29年	5,662 件	43 件	母体	転院搬送18、急病8
			新生児	転院搬送17
平成30年	5,848 件	28 件	母体	転院搬送13、急病2、交通1
			新生児	転院搬送12

表17-2 周産期救急の搬送先医療機関

	平成28年	平成29年	平成30年
三次医療機関	46 件	36 件	26 件
二次医療機関	4 件	4 件	1 件
管外医療機関	1 件	3 件	1 件

表17-3 周産期救急の傷病分類

傷病名	平成28年	平成29年	平成30年
切迫早産	7件	12件	4件
切迫流産	2件	0件	0件
常位胎盤早期剥離	3件	0件	2件
異所性妊娠（子宮外妊娠）	2件	0件	1件
破水	1件	4件	5件
妊娠高血圧症候群	3件	1件	0件
分娩（及びそれに関係するもの含む）	3件	3件	0件
その他	7件	5件	3件
周産期以外の疾患 ※1	3件	1件	1件

※1 傷病者妊娠中であり、その他の疾患により救急搬送されたもの

表 17-4 新生児救急の傷病分類

傷病名	平成28年	平成29年	平成30年
新生児仮死	1件	2件	3件
一過性多呼吸（新生児呼吸障害含む）	4件	3件	0件
子宮内感染症	2件	1件	2件
新生児低血糖症	1件	1件	0件
心室中隔欠損	2件	1件	0件
新生児気胸	1件	1件	0件
新生児黄疸	0件	1件	1件
低出生体重児	0件	2件	1件
その他疾患	9件	5件	5件

表 17-5 自宅分娩及び車中分娩件数

平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
5件	1件	2件	1件	1件	0件	1件	0件	2件	1件	0件

18、ドクターカー出動状況

平成25年5月より北見赤十字病院の保有する周産期救急ドクターカーを北見地区消防組合が協定により運行している。

病院前周産期救急診療及び重度傷病者に対する救急診療等が対象となり、医師・看護師及び救急救命士が乗車し早期に診療を開始することで救命率向上を図ることを目的としている。

平成30年中の出動件数は19件、内訳は施設間搬送（転院搬送）に係るものが半数以上を占め、医師搬送が3件、労働災害が1件であった。